

処理困難物を再資源化



積替え・保管施設で利便性向上



青森クリーン管理型最終処分場

再使用から焼却、埋立まで

青森県に管理型最終処分場を構える青森クリーン(本社・青森県むつ市、加藤秀人社長)は4月、新しく3期処分場の操業を開始した。埋立面積は3万1759平方㍍で、埋立容積は43万1717立方㍍。総工費は約30億円。未着工の区域も含めて15年間で埋め立てを完了する計画だ。今後は県内シェアを拡大していく予定だが、自己でしか処分できないものを主に受け入れる。7月時点で、累計約1万立方㍍の廃棄物を処分している。

青森クリーン管理型最終処分場の設置許可も取得しており、いつでも着工に向けて動きだせるよう調整している。5年後を目安に着工する予定。埋立面積は1万9559平方㍍で、埋立容積は32万4059立方㍍になる。

同社はすでに4期処分場の設置許可も取得しており、いつでも着工に向けて動きだせるよう調整している。5年後を目安に着工する予定。埋立面積は1万9559平方㍍で、埋立容積は32万4059立方㍍になる。

同社は離れた場所に合わせてうまく使えるようになっている。不測の事態にも対応できるような設備構造だという。

同社は離れた場所に合わせてうまく使えるようになっている。不測の事態にも対応できるような設備構造だという。

積替え・保管が可能な浪岡事業所(青森市)を設けており、少量の廃棄物を排出する事業者向けの受け入れを行っている。毎日運搬を行っている自社トラックが受け入れ物を搬送し、処理を効率的に完了することができる。

1期・2期処分場は今年度で閉鎖する方向で調整を進めている。事業完了後は、地元住民との協議を重ねて望

3期処分場が操業開始 積替保管施設も所有

青森クリーン

東北で活躍する企業

に、埋立処分をするしか方法がないものを中心に受け入れている。木くずや廃プラスチックなどが単体で持ち込まれた際は原則として返す。現状では、動物の餌となる広葉樹の植樹を検討している。加藤社長は、「適正化率を底上げしていく」と述べている。

受け入れないようになっており、業界全体で再資源化率を底上げしていく」と述べている。

受け入れないようになっており、業界全体で再資源化率を底上げしていく」と述べている。

受け入れないようになっており、業界全体で再資源化率を底上げしていく」と述べている。